



子育てストレスと 家族・自治体・社会的サポート —東京49区市子育て調査の分析を通じて—

成蹊大学アジア太平洋研究センター
渡邊大輔(dwatanabe@ejs.seikei.ac.jp)

本研究の背景と目的

- ▶ 背景：子育ての社会化とストレスの問題
 - ▶ 共働き世帯の増加
 - ▶ 核家族化による家族内のサポート主体の変化
 - ▶ 行政サービス（ヘルスケアサービス，金銭的補助，保育施設など）は過去に比べれば漸増
 - ▶ 子育ての悩みやストレスの深刻化の指摘 → 児童虐待，ケア主体の健康・精神の悪化
- ▶ 効果的な子育ての社会化を支援するために，子育てストレスを緩和する要因をサポート主体別に探る

RQ

- ▶ 自治体や社会的な支援によって
 - ▶ 子育てストレスを緩和させ、また、子育てに関わる満足度を向上させることができるか？
- ▶ 家族によるサポート
- ▶ 自治体によるサポート
- ▶ 友人・知人による社会的サポート
 - ▶ この3者を同時に比較分析する

調査・データ

- ▶ 方法・調査期間
 - ▶ 郵送質問紙調査, 2011年9～10月に実施
- ▶ 対象
 - ▶ 東京都の全49区市に居住する**25～54歳の男女**
 - ▶ 層化二段無作為抽出法(49自治体×50)
- ▶ 計画標本・回収数
 - ▶ 計画標本2450人, 有効回収数1230人(有効回収率51.0%)
 - ⇒ 子どもがいる623名を分析対象とする

従属変数：子育てストレス

- ▶ 子育てストレスについての6設問：4件法
 - ▶ 「まったく感じない」を1点, 「よく感じる」を4点へと逆転
 - ▶ 該当項目の平均点を子育てストレス得点として計算

問18 最近(またはおこさんが小さかった頃)、以下のようなことをどれくらい感じますか(感じましたか) (○はそれぞれ1つ)

	全く感じない	ごくまれに感じる	ときどき感じる	よく感じる	わからない・該当しない
(a) 家庭での自分の負担が大きすぎる	4	3	2	1	
(b) 育児から解放されたい	4	3	2	1	
(c) 子どもの養育費・教育費が家計を圧迫している	4	3	2	1	
(d) 自分の子育ての努力を配偶者が理解してくれない	4	3	2	1	88
(e) 職場で育児への理解が不足している	4	3	2	1	88
(f) 行政の子育て支援が不足している	4	3	2	1	

▶ 安河内ら(2007)を参照

独立変数：サポートする人の有無

- ▶ 情報を提供してくれる人（情報サポート）
 - ▶ 悩みの相談にのってくれる人（情緒的サポート）
 - ▶ 子どもを預かってくれる人（手段的サポート）
- してくれる人の有無

子育ての情報を
提供してくれる人

悩みの相談に
のってくれる人

必要なときに子どもを
預かってくれる人

家族

- 配偶者や家族

- 配偶者
- 家族・親戚

- 配偶者
- 家族・親戚

自治体

- 区市の広報誌
- 区のHP

- 区市の育児相談サービス
- 保育士・先生

- 保育所・学童保育
- 一時保育サービス

社会

- 友人や子育てサークルの仲間

- 友人や子育てサークルの仲間

- 友人や子育てサークルの仲間
- 以前からの友人

独立変数：子育てに関する自治体満足

▶ 子育てに関する自治体満足：4件法

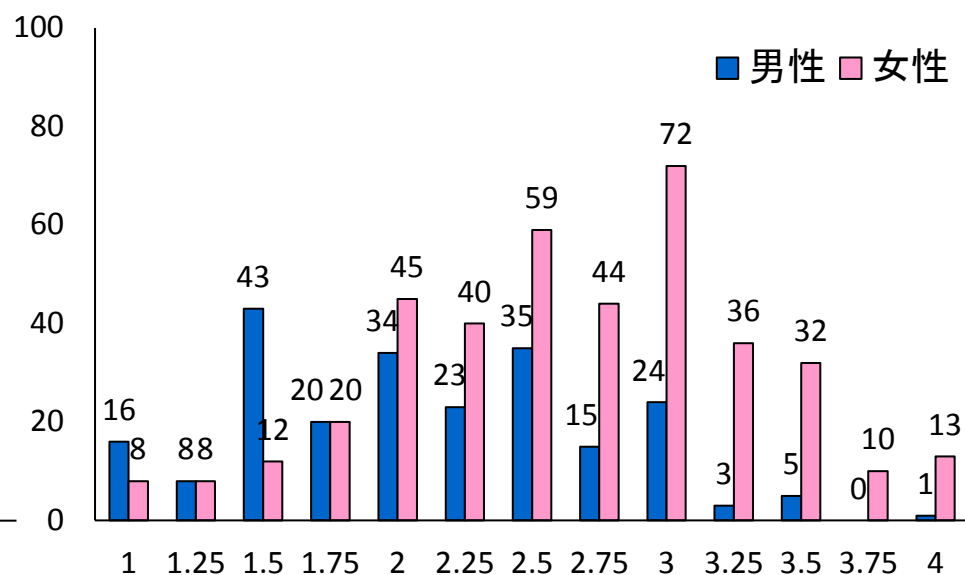
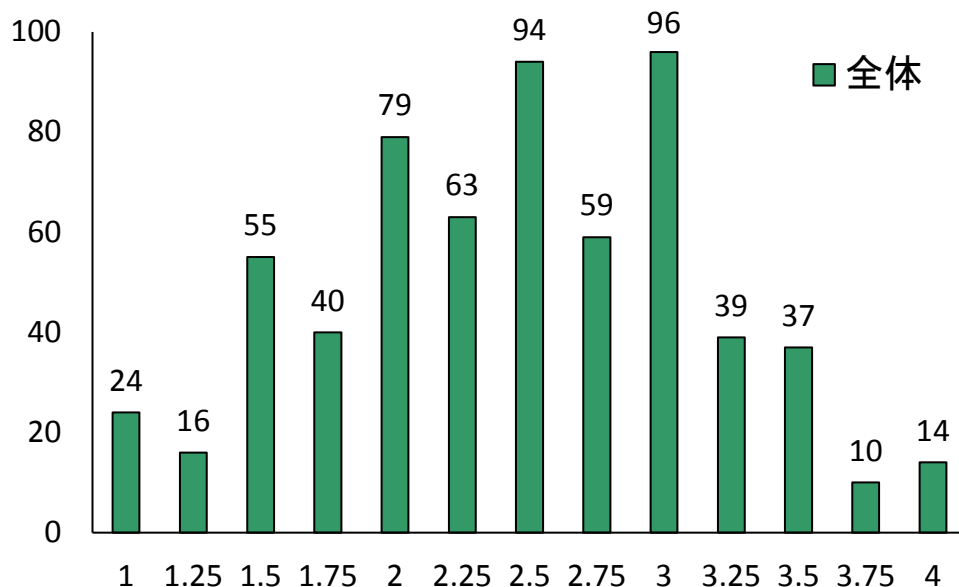
問3 お住まいの区市の以下の点に、どれくらい満足していますか（○はそれぞれ1つ）

	全く 感じない	ごくまれ に感じる	ときどき 感じる	よく 感じる	わからない・ 該当しない
(a) 家賃や住宅取得への助成	4	3	2	1	88
(b) 結婚に関する支援	4	3	2	1	88
(c) 出産・子育てに関する支援	4	3	2	1	88
(d) 子どもへの医療費の助成	4	3	2	1	88
(e) 区内の小児医療体制	4	3	2	1	88
(f) 学校教育にかんする金銭的支援 (奨学金・学用品・給食費など)	4	3	2	1	88

▶ 統制変数：男性ダミー，等価所得，就労ダミー，子どもの数

記述統計：子育てストレス得点

- ▶ 全体の平均は 2.36 ± 0.70 ($n=623$)
 - ▶ 男性 2.03 ± 0.63 ($n=244$)
 - ▶ 女性 2.55 ± 0.66 ($n=399$)
- $t=-9.666(477.671)***$



子育てストレス得点の他の変数との関連

- ▶ 自治体を独立変数とした一元配置分散分析
 - ▶ 子育てストレスについては有意差は見られなかった（個別項目についても同様）
cf. 子育てに関わる自治体満足については、家賃や住宅取得への助成を除いて、いずれも有意であった
- ▶ その他の変数との関連
 - ▶ 主観的健康感への影響 ($r = -.220^{***}$)
 - ▶ 生活満足度への影響 ($r = -.416^{***}$)
 - ▶ 子どもとの関係満足度への影響 ($r = -.292^{***}$)

子育てストレス得点についての重回帰分析

- ▶ 従属変数は子育てストレス得点
- ▶ モデル1：基本項目のみ
- ▶ モデル2：基本項目＋家族によるサポート
- ▶ モデル3：基本項目＋自治体によるサポート
- ▶ モデル4：基本項目＋社会的サポート
- ▶ モデル5：すべての変数

子育てストレス得点についての重回帰分析

重回帰分析	Model1	Model2	Model3	Model4	Model5
	B	B	B	B	B
男性ダミー	-.538 ***	-.514 ***	-.501 ***	-.529 ***	-.446 ***
等価所得	-4.E-04 *	-3.E-04 *	-3.E-04 *	-4.E-04 *	-4.E-04 *
就労ダミー	.084	.044	.062	.086	.035
現時点での子どもの数	.122 **	.127 **	.135 ***	.121 **	.126 **
子育て情報: 配偶者や家族		.066			.066
悩み相談: 配偶者		-.246 ***			-.258 ***
悩み相談: 配偶者以外の家族・親戚		.094			.087
預かる人: 配偶者		-.140 *			-.143 *
預かる人: 配偶者以外の家族・親族		-.128 *			-.109 †
子育て情報: 区市の広報誌			.019		.038
子育て情報: 区のHP			-.027		-.003
悩み相談: 区市の育児相談サービス			-.046		-.054
悩み相談: 保育士や幼稚園・学校の先生			-.018		-.025
預かる人: 保育所・学童保育			.143 *		.133 *
預かる人: 一時保育サービス			.095		.097
子育て情報: 友人や子育てサークルの仲間				.061	.087
悩み相談: 友人や子育てサークルの仲間				-.047	-.020
預かる人: 育児を通じて知り合った友人				.061	.091
預かる人: それ以前から知っている友人				-.053	-.082
n	548	548	548	548	548
調整済みR2乗値	.144	.180	.145	.140	.180
AIC	-477.08	-491.700	-467.760	-466.848	-482.137

子育てストレス得点の重回帰分析の結果

- ▶ モデル2がAICが低く, $\text{adj.}R^2$ も高い
 - ▶ 男性, 等価世帯所得が有意に負の影響を, 子どもの数が有意に正の影響を与えていた
 - ▶ 配偶者の悩み相談, 預かる人: 配偶者, 預かる人: 家族・親族がいずれも有意に負の影響を与えていた
- ↓
- ▶ 配偶者のあり方がストレス全体を規定しており, 自治体の施策, 社会的ネットワークの影響は少なかった

多変量解析：子育てストレスの要因分解

- ▶ 就労しており、かつ、現在配偶者がいる人を対象に分析($n=423$)
- ▶ 子育てストレスの6項目について因子分析(重みづけのない最小二乗法, バリマックス回転)を行った
- ▶ 家庭内問題因子, 外部支援不足因子の2因子を抽出した

	第1因子	第2因子	共通性
家庭内問題因子 ($\alpha=.766$)			
家庭での自分の負担が大きすぎる	.807	.193	.688
育児から解放されたい	.680	.288	.545
自分の努力を配偶者が理解してくれない	.603	.284	.444
外部支援不足因子 ($\alpha=.604$)			
行政の子育て支援が不足	.162	.767	.615
職場での育児への理解不足	.221	.486	.285
養育費・教育費が家計を圧迫	.243	.439	.252
寄与率	26.85	20.32	47.17

子育てストレスの要因分解：2因子の特性

- ▶ 子育てストレス2因子の因子得点と自治体満足との関連について
 - ▶ 家庭内問題因子と自治体の子育て施策の評価には関連はみられない
 - ▶ 逆に，外部支援不足因子については， $-0.3 \sim -0.4$ 程度の負の相関がみられる

	1	2	3	4	5	6	7	8
1 子育てストレス(家庭内問題因子)								
2 子育てストレス(外部支援不足因子)	.183**							
3 自治体満足:家賃や住宅取得	-0.07	-.370**						
4 自治体満足:結婚にかんする支援	-0.114	-.328**	.712**					
5 自治体満足:出産・子育て支援	-0.002	-.414**	.397**	.572**				
6 自治体満足:子どもへの医療費の助成	-0.084	-.312**	.277**	.423**	.530**			
7 自治体満足:小児医療体制	-0.04	-.304**	.313**	.483**	.489**	.596**		
8 自治体満足:学校教育への金銭的支援	-0.004	-.340**	.445**	.586**	.575**	.568**	.583**	

外部支援不足因子に該当した子育てストレス3項目の平均値の重回帰分析

- ▶ 家族，社会的サポートを入れたモデルはモデル自体が有意ではない（表は割愛）
- ▶ 従属変数：外部支援不足因子に該当した子育てストレス3項目の平均値
- ▶ モデル1：基本項目＋21時以降の帰宅日数／週
- ▶ モデル2：モデル1＋自治体による子育てサポート(*)
- ▶ モデル3：モデル1＋子育てに関する自治体満足
- ▶ モデル4：すべての変数

(*) 多重共線性の問題および内容の観点から，結婚にかんする支援，小児医療体制の整備，学校教育への金銭的支援を除いた

外部支援不足因子に該当した子育てストレス3項目の平均値の重回帰分析

重回帰分析	Model1	Model2	Model3	Model4
	B	B	B	B
男性ダミー	-.105	-.111	-.106	-.121
等価所得	-1.E-03 **	-1.E-03 **	-1.E-03 ***	-1.E-03 ***
現時点での子どもの数	.244 **	.286 **	.177 *	.219 *
21時以降帰宅日数(週)	-.043	-.038	-.038	-.035
子育て情報: 区市の広報誌		.016		-.001
子育て情報: 区のHP		.087		.128
悩み相談: 区市の育児相談サービス		.063		.062
悩み相談: 保育士や幼稚園・学校の先生		-.253 †		-.245 †
預かる人: 保育所・学童保育		.056		.038
預かる人: 一時保育サービス		.263		.241
自体体満足: 家賃や住宅取得への助成			-.118 †	-.122 †
自体体満足: 出産・子育てに関する相談			-.200 *	-.213 *
自体体満足: 子どもへの医療費の助成			-.084	-.083
n	139	138	139	138
調整済みR2乗値	.115	.113	.243	.255
AIC	-89.501	-81.932	-108.364	-103.295

外部支援不足因子の因子得点についての重回帰分析の結果

- ▶ モデル3, 4のAICが低く, $\text{adj.}R^2$ も高い
 - ▶ 等価世帯所得が有意に負の影響を, 子どもの数が有意に正の影響を与えていた
 - ▶ 自治体によるサポートは影響が見られない(悩み相談: 保育士や幼稚園・学校の先生のみ10%水準で有意)
 - ▶ 自治体満足については, 家賃住宅取得への助成と出産・子育てに関する相談が有意に負の影響を与えていた
- ↓
- ▶ 子育てについての「悩み相談」を評価しているが, モデル2の項目では有意差が見られない
 - ▶ 自治体などによる**情緒的サポートの重要性**が示唆された

結論

- ▶ 子育てストレスについて女性の方が男性に比べて有意に高く、49区市内での地域差は見られなかった
- ▶ 家族によるサポートが子育てストレスを緩和しており、社会的サポートの効果は有意ではなかった
 - ▶ 子育てストレスを規定している要因として、**配偶者との関係がもっとも重要**であった
 - ▶ とくに情緒的サポートと手段的サポートが重要
- ▶ 子育てストレスは2因子(家庭内問題因子, 外部支援不足因子)に分解できた
- ▶ 外部支援不足因子を分析した結果, 自治体などによる**情緒的サポートの重要性**が示唆された
 - ▶ ただし, 今回のデータからは, その具体的な供給主体についての分析ができていない

研究の限界，今後の課題

- ▶ 東京の49区市を対象としているが，地域差についての検証が不十分である
 - ▶ 市場，NPOなどについての影響については，統制できていない（多様な外部支援の検証）
 - ▶ 子育ての負担の大きい6歳以下の乳幼児に焦点をおくなどの分析は，サンプル数の問題からできていない
- ▶ 本研究は，財団法人二十一世紀文化学術財団による「平成 22 年度 二十一世紀文化学術財団学術奨励金」による助成（代表：金井雅之）の成果の一部である。